



始



●食物は身體の榮養

滋賀縣彦根圖書館報

昭和三年十二月

●書物は精神の榮養

滋賀縣彦根町立彦根圖書館報

目次

第一、沿革	一
第二、館則及諸規程	六
第三、藏書	一〇
第四、圖書目錄及分類	一二
第五、圖書閱覽	一二
第六、經費	一七
第七、館員	一七
第八、寄贈	一九
第九、施設事項	二三

滋賀縣彦根町立彦根圖書館報

自大正五年二月  
至昭和三年十二月

第一、沿革

大正三年滋賀縣立彦根中學校改築竣工セルヲ以テ、舊校舍拂下ノ議アリ因テ彦根町長柳瀬銀藏ハ本町ニ之ガ拂下ヲ受ケ之ヲ改造シテ彦根公會堂ト爲シ圖書館及物産陳列館ヲ附設セント欲シ、大正三年七月十一日町會ヲ招集シ之ガ豫算案ヲ提出議決シ即日校舍拂下ノ件ヲ本縣知事ニ申請シ其ノ認可ヲ得タリ。

一、大正三年十月本町金龜四番ノ一、二、三、四、五、六、七番地金龜公園内八段七畝二十三歩ノ地ニ公會堂建設ノ工ヲ起シ翌四年三月二十九日竣工セリ。

二、大正四年六月十五日ヨリ圖書館事務ヲ開始シ館内ノ設備圖書ノ蒐集簿冊ノ調製ニ從事ス。同年十二月十日町會ニ於テ圖書館規則ヲ議定セリ。

備品ハ町有志ノ寄附金ヲ以テ之ニ充テ書架、机、椅子、腰掛、簿冊ヲ設備シ尙圖書ヲモ購入セリ其外圖書ハ町役場、東西兩小學校ノ藏書ヲ移入セシモノト各方面ノ同情トニ依リ多數ノ寄贈又ハ委託セラレタルモノトヲ併セ圖書三千八十八冊、雜誌千二百二十四冊、通計四千二百十二冊ニ達シ大正五年二月一日ヲ以テ假リニ開館スルコトヲ得タリ。因ニ本町圖書館設立ハ明治四十二年無根水會同志ノ首唱其因ヲ爲シ井伊家ヨ



リ其ノ創設費中へ金參千圓ノ寄附アリ茲ニ其實現ヲ見タルモノナリトゾ。

一、大正四年十一月十日 御即位ノ大禮ヲ行ハセラル、ニ際シ、彦根町ノ有志ハ御大典奉祝協賛會ヲ組織シテ會員ヲ募集シ以テ祝意ヲ表スルタメニ美術品展覽會、學藝品展覽會等種々ノ事業ヲ舉行セリ。然ルニ其施設タルヤ何レモ一時的ノモノニシテ永久ノ記念トナラザルニ因リ開國文庫ヲ起シ、御大典記念トシテ町立彦根圖書館内ニ附設セントノ議起リ、終ニ協賛會寄附金ノ一部ヲ以テ之ガ開設ヲ決定セリ、因テ協賛會ハ參百參拾六圓七拾五錢七厘ヲ開國文庫費トシテ彦根町役場ニ寄贈シ、町會ハ之ヲ採納シテ大正五年度本館圖書購入費中ニ編入シ、四月以來其設置ニ着手シ、終ニ七月廿日ヲ以テ開始シ一般公衆ノ閱覽ニ供スルニ至レリ。

日本ノ開國ニ關シテハ老中阿部伊勢守正弘ハ北米合衆國ト修交條約ヲ締結シ、老中堀田備中守正睦ハ通商條約ヲ議定セシガ其調印ニ際シ故障起リテ容易ニ成立セザリシヲ大老井伊掃部頭直弼ハ北米合衆國水師提督ペリー渡來ノトキヨリ貿易說ヲ唱ヘシニヨリ大ニ決スル所アリテ終ニ通商條約ニ調印成立セシメ以テ幸ニ國家ニ事ナキヲ得タリ、彦根ハ直弼ノ出身地ニシテ明治聖代ヲ經テ、日本文華ノ盛ニ開ケシ其根元ハ開國ニ基ケルニヨリ、大正ノ御大典記念トシテ開國文庫ヲ彦根ニ設置スルハ最モ適切ナル施設ナリト信ジタルニ因ル、而シテ開國ノ遠源ハ天文十一年葡萄牙船渡來ニ在リ、故ニ本文庫ハ主トシテ天文十一年以後ニ起リシ外交上ノ圖書記錄ヲ始メトシテ、外國ノ事情ヲ記セルモノ、學術ニ關スルモノ、外國人ニ接觸シ若

クハ學術上ヨリ日本ニ影響シタル事情等ニ關スル内外ノ書籍ヲ廣ク蒐集シ以テ現代文明ノ由テ來ル所ヲ研鑽セントスル人々ノ資料ニ供セントスルニ在リ。

一大正五年二月十八日彦根町長ハ彦根町立彦根圖書館ノ設立認可ヲ文部大臣ニ申請セシニ同四月二十五日認可セラレ五月五日日本縣知事ニ開館ヲ申報ス。同十二月二十六日日本縣知事ハ柳瀬銀藏ヲ館長ニ勝辨藏ヲ司書ニ北村壽四郎ヲ書記ニ任用セリ。爾來館員交迭數回ニ及ビシガ、北村書記ハ大正八年二月二十六日迄勤績シテ館務ニ勵精シ本館内容ノ基礎ヲ確立セリ。

一大正十三年中川良藏氏ハ家兄故中川留三郎氏ノ遺志ニ依リ、其遺產金六萬五千圓ヲ彦根圖書館經營費トシテ寄附セラレタルヲ以テ、同年三月三十一日町會ニ於テ寄附金中四萬圓ハ基金トシ金二萬五千圓ヲ以テ圖書館新築ノ議ヲ決セリ其後土地選定ニ關シ議論區々タリシガ遂ニ地ヲ大字四番町故陸軍少將岡見正美氏ノ邸趾ニ相シ大正十五年七月二日工事ニ着手シ同年八月二十七日上棟式ヲ行ヒ昭和二年一月二十日竣成昭和二年四月二十九日竣工式ヲ舉行セリ來賓ノ主ナルモノハ松平本縣學務部長、中村彦根高等商業學校長、早川本縣庶務課長、各種中等學校長、小學校長、筒井彦根測候所長、川端滋賀縣水產試驗場長、官公署長、篤志者、銀行會社代表者、新聞記者、隣接町村長、本町名譽職名望家其他特ニ本館ニ關係ヲ有スル者等百八十餘名ニシテ、式後京都帝國大學教授文學博士野上俊夫氏ノ「社會教育について」ト題スル有益ナル講演アリ多大ノ感動ヲ與ヘタリ、當日本町長ノ朗讀セラレタル式辭左ノ如シ。

彦根圖書館新築工成リ天長節ノ佳辰ヲトシ竣工式ヲ舉グルニ當リ知事閣下代理ヲ始メ來賓各位ノ貴臨ヲ辱クス洵ニ欣幸ノ至リニ禁ヘザルナリ

抑國家ノ隆替文化ノ消長ハ國民修養ノ如何ニ依存シ國民ノ修養ハ讀書講學ノ程度ニ職由ス方今圖書ノ刊行日ニ盛ニシテ汗牛充棟管ナラザルモノアリ須ク精選セル圖書ヲ蒐集シテ公衆研學ノ資ニ供セシコトヲ圖ラザルベカラズ是レ輓近圖書館運動ノ勃興セル所以ナリ

本町夙ニ茲ニ見ルアリ從來公會堂ノ一室ヲ割キテ圖書館ヲ設置シ公衆研學ノ要求ニ應ゼシト雖モ規模狹小ニシテ時勢ニ順應セザルノ憾アリキ偶々故中川留三郎氏幕末名士ノ血脈ヲ受ケ人文啓發ノ宿志アリ遺言シテ鉅萬ノ資ヲ圖書館費トシテ寄贈セラル本町其美譽ヲ納レ本館ヲ新築シ設備ヲ改善シ更ニ進ンデ必要ナル經費ヲ投ジ大イニ圖書館教育ノ發達ヲ圖ラントスルニ至ル寔ニ昭代ノ盛事ニシテ公衆ノ慶福ト謂フベキナリ

今ヤ世局ハ正ニ會通ノ運ニ際シ人文ハ恰モ更張ノ期ニ膺リ本町凡百ノ事業亦駸々乎トシテ發展ノ機運ニ向フヲ見ル吾人須ラク時勢ヲ達觀シテ大イニ修養ニ努ムル所ナクンバアルベカラズ惟フニ圖書館ハ知徳ノ源泉タリ文化ノ寶庫タリ苟モ知識ヲ古今ニ求メ社會ノ進運ヲ裨補シ志ヲ當代ニ伸暢セントスル者宜シク此ノ源泉ヲ汲ミ此ノ寶庫ヲ探ルベキナリ庶幾クハ自今益々本館ノ活用ニ努メ小ニシ

テハ自己ノ人格ヲ向上セシメ大ニシテハ社會ノ文化ニ貢獻センコトヲ式ニ際シ聊卑見ヲ陳ベテ式辭トス

昭和二年四月二十九日

彦根町長 平塚分四郎

當日ハ中川留三郎氏ノ祖父中川祿郎氏(漁村)ノ遺墨ヲ始メ名士ノ書畫及稀觀書展覽ヲナシ一般ノ縱覽ヲ許セリ

新館工事ノ概要左ノ如シ

- (一) 位 置 彦根町大字四番
- (二) 敷 地 貳百拾參坪參合
- (三) 各室名稱 新聞雜誌閱覽室、事務室、兒童室、婦人室、大閱覽室、應接所兼讀書相談室、使丁室、物置、書庫

- (四) 建 坪 本館二階建六拾六坪八二一五、書庫三階建拾五坪、附屬家平家建貳拾參坪八七五
  - (五) 建物構造 本館ハ木造二階建ニシテ腰煉瓦積外部ラス張人造石及モルタルスタツコー塗トシ内部木摺壁床總体練革床床塗リ階上床ニハ音響止メノ裝置ヲナシ屋根瓦葺新聞雜誌室ハ特ニ床人造石塗リトシテ出入ニ便ナラシム
- 書庫ハ鐵筋コンクリート造三階建屋根陸屋根トシ、外部ハ本館ニ倣ヒ仕上ゲヲナシ内

部各階ニ木造書棚ヲ取設ケ部門別ニ圖書ヲ格納シ得ルモノトス而シテ階上階下圖書出納室ヨリ廊下ヲ以テ連絡セシメ窓入口ニハ各防火鐵扉ヲ建込ム

附屬家ハ木造平家建屋根瓦葺直壁仕上ゲ外部板張リトス

(六) 工事費 總計四萬參千貳百拾七圓八錢

内 金壹萬壹千七百參拾壹圓五拾錢 敷地買收費

金參萬壹千四百八拾五圓五拾八錢 建築其他諸費

一、昭和三年四月迄關外方左右ニ小書棚ヲ設備シ讀書誘導ノ一助トセリ

### 第二、館則及諸規程

#### 彥根圖書館規則

第一條 本館ハ博ク圖書記錄新聞雜誌等ヲ蒐集シテ公衆ノ閱覽ニ供シ兼テ附帶事業トシテ社會教育ニ關スル種々ノ施設ヲ爲シ以テ地方文化ニ貢獻スルヲ以テ目的トス

第二條 本館ニ左ノ職員ヲ置ク

館長	一名	司書	一名
書記	若干名		

前項ノ外必要ニ應ジ事務員ヲ置クコトヲ得

第三條 館長ハ館務ヲ總理シ所屬職員ヲ統督ス

第四條 司書ハ圖書記錄ノ整理保存及閱覽ニ關スル事務ニ從事シ館長事故アル時ハ其職務ヲ代理ス

第五條 書記並ニ事務員ハ館長ノ命ヲ受ケ庶務ニ従事ス

第六條 本館ノ圖書ヲ閱覽セントスル者ハ本則並ニ別ニ定ムル閱覽心得ヲ遵守スベシ

第七條 本館圖書ノ閱覽ハ無料トス

但シ特別ノ施設ニ對シテハ閱覽料ヲ徴收スルコトアルベシ

第八條 本館ノ休日左ノ如シ

但臨時休館スルコトアルベシ

毎週月曜日

大祭祝日

曝書 九月十月ノ内凡一週間

十二月二十九日ヨリ翌月五日マデ

第九條 開館時限左ノ如シ

但時宜ニ依リ伸縮スルコトアルベシ

四月三十一日ヨリ 午後一時ヨリ午後九時マデトシ日曜日ニ限り午前九時ヨリ午後五時迄トス  
 十一月一日ヨリ 午後一時ヨリ午後八時マデトシ日曜日ニ限り午前九時ヨリ午後四時迄トス  
 三月三十一日マデ

第十條 左記ニ該當スル者ハ入館ヲ許サズ

一、精神病者

二、傳染病者並ニ他人ノ嫌忌スル疾患者

三、泥酔者

四、圖書閲覧ノ目的ヲ有セザル者

五、其他係員ニ於テ不都合ト認ムル者

第十一條 本館圖書ハ左記圖書ヲ除キ別ニ定ムル規定ニ依リ館外貸出ヲ許スコトアルベシ

貴重ナル圖書 新着圖書 辭書類 繪畫圖表類 教科書參考書 大冊物及非賣品 新聞雜誌官公報類

希望者多數ノモノ 委託圖書

第十二條 本館ハ私人又ハ團體ヨリ委託セントスル圖書ニシテ有益ト認ムルモノニ限り之ニ應ズルコトアルベシ

第十三條 本館ハ有益ト認ムル圖書ノ寄贈ヲ受クルコトアルベシ

第十四條 前二條ニ依ル圖書ノ送料ハ特別ノ場合ヲ除キ寄贈者又ハ委託者ノ負擔トス

第十五條 本館ニ於テ委託ヲ受ケタル圖書ハ別段ノ契約アル場合ノ外本館所藏ノ圖書ト同様ニ取扱フモノトス

第十六條 委託圖書ニシテ火災盜難其他不可抗力ニ依ル損害ヲ受クルコトアルモ本館ハ其責ニ任ゼズ

第十七條 本則施行ニ必要ナル細則ハ館長之ヲ定ム

#### 彥根圖書館圖書閲覧細則

##### 一、館内閲覧心得

第一條 館内ニ於テ圖書ヲ閲覧セントスル者ハ閲覧用紙ニ指定事項ヲ記入シ閲覧證ト共ニ圖書ヲ受取ルベシ

第二條 男子ノ閲覧人ハ普通閲覧室女子ノ閲覧人ハ婦人閲覧室特待者又ハ特ニ館長ノ許可ヲ受ケタル者ハ特

別室兒童ハ兒童閲覧室ニ於テ閲覧スベシ

第三條 同時ニ借覽シ得ベキ圖書ハ兒童ハ一冊其他ハ三冊以内トス 但特待者ハ此限ニアラズ

第四條 閲覧室ニ於テハ音讀談話喫煙飲食其他喧騒ノ行爲ヲ許サズ

第五條 閲覧者ハ圖書ノ轉貸ヲナスベカラズ

第六條 圖書ヲ紛失毀損若クハ汚損シタル者ハ相當辨償ノ責ニ任ズベキモノトス

第七條 圖書ノ閲覧ヲ終リタルカ若クハ閉館時限ニ達シタル時ハ直チニ閲覧證ヲ添附シ圖書ヲ返納スベシ

第八條 新聞雜誌ハ當該備附ノ室ニ於テ隨意閱覽スルコトヲ得閱覽後ハ正シク原位置ニ復セシムベシ

但特殊雜誌ノ閱覽ハ第一條ノ手續ヲナスベシ

第九條 本館ノ圖書ヲ閱覽セザル者又ハ閱覽心得ヲ遵守セザル者ハ館内ニ在ルコトヲ禁ズ

二、館外閱覽心得

第十條 本館圖書ヲ館外ニ帶出セントスル者ハ圖書帶出閱覽請求用紙ニ指定事項ヲ記入シ帶出閱覽證ト共ニ圖書ヲ受取ルベシ

第十一條 同時ニ帶出シ得ベキ圖書數ハ一冊ヲ常例トシ帶出期間ハ一週間以内トス 但シ團體トシテ帶出セントスル場合ノ冊數並ニ期間ハ其都度之ヲ定ム

第十二條 帶出期限至ルモ返納セザル時ハ督促ニ要スル費用ヲ徴シ爾後閱覽ヲ拒絕スルコトアルベシ

第十三條 閱覽圖書ハ鄭重ニ取扱ヒ萬一毀損又ハ亡失シタル時ハ相當辨償セシムルモノトス

第十四條 帶出圖書ハ他人ニ轉貸スルコトヲ得ズ

第十五條 借覽人住所ヲ變更シタル時又ハ圖書ヲ亡失シタル時ハ直チニ本館ニ届出ヅベシ

第三、藏書

昭和三年十二月末日現在藏書左ノ如シ

部	門	和書冊	洋書冊	合計冊
第〇門	總記	一、六八三	二九	一、七一二
第一門	宗教、哲學	八九一	六	八九七
第二門	教 育	九九八	〇	九九八
第三門	文學、語學	三、九五九	一五	三、九七四
第四門	歴史、地理、風俗	二、一〇六	五	二、一一一
第五門	政治、法律、經濟 社會、統計、家政	一、二五一	六	一、二五七
第六門	理學、數學、醫學	五二〇	五	五二五
第七門	工學、海軍、兵事	二八一	二〇	三〇一
第八門	産業、交通、通信	三九九	一	四〇〇
第九門	美術、諸藝、競技	四三一	四	四三五
	御大典記念文庫	一、三六二	〇	一、三六二
合 計		一三、八八一	九一	一三、九七二
雜 誌		一、七六二	〇	一、七六二
總 計		一五、七三四	九一	一五、八二五

#### 第四、圖書目錄及分類

圖書目錄ハ目下カード式目錄ヲ採用ス將來帳簿式目錄ヲ併用セントス  
但シ御大典記念文庫、三浦文庫ハ帳簿式目錄ヲ編製セリ。本館圖書ノ分類ハ十進分類法ニ依ル即チ全体ノ圖書ヲ十門ニ分チ各門ヲ再ビ十部ニ分チ更ニ各部ヲ十目ニ細別シ順次十分進行ヲナスモノナリ。本館ニテハ藏書未ダ二萬ニ滿タザルヲ以テ第二位程度ニ止メタリ

#### 第五、圖書閱覽

圖書閱覽ニ關スル各室配備左ノ如シ

- (一) 新聞雜誌縱覽室  
立開ヨリ土足ノ儘ニテ自由ニ出入シ各種新聞紙並ニ寄贈雜誌ヲ一般人ニ縱覽セシム
- (二) 兒童閱覽室
- (三) 男子閱覽室
- (四) 婦人閱覽室

閱覽出納ノ手續ハ兒童書並ニ新刊圖書ハ開架式閱覽法ヲ實施シ自ラ書架ニ接シテ自由ニ探查セシメ其他ノ圖

書ハ書庫ニ藏シテ請求ニ應ジ提供スルコトトセリ  
尙ホ前記規程ニ依リ館外帶出閱覽ヲモ許可スルコト、セリ  
昭和三年一月ヨリ同十二月末迄ノ開館日數ハ二百九十四日ニシテ閱覽人員ハ新聞室閱覽者ヲ除キ男四萬一千六百五十四人、女九千三百二十六人、計五萬九千八百八十人、閱覽冊數男五萬九千八百八十五冊、女一萬一千四百四十七冊、計七萬六千五百三十二冊ニ達ス。即一日男女平均人員百七十三人強一日平均冊數二百四十冊強ニ相當ス。若夫レ新聞雜誌閱覽ヲ加算センカ更ニ多數ニ達スベキナリ。今各部門別閱覽圖書統計、閱覽人職業別統計、閱覽人住所別統計ヲ示セバ左ノ如シ

昭和三年一月ヨリ十二月マデ 彦根圖書館閱覽圖書職業別統計 △印ハ女子

部 門	學生	教員	神官 宗教家	記者 醫師 辯護士	官公吏 軍人	實業家	銀行員 社員	兒童	無職	其他	合計
第〇門總記	七、三八九冊 △一、〇六九	三六冊 △四七	一冊 △一	四冊 △一	四九冊 △八	二、五四四冊 △四〇二	五六二冊 △一〇二	一一、七三三冊 △五、七二五	七六冊 △九三	一九冊 △七五	二四、五六六冊 △七、五〇九
第一門宗教哲學	一、三三九冊 △七六	四六冊 △一四	一冊 △一	一冊 △一	六六冊 △九	五〇九冊 △三二	一一〇冊 △五	一一冊 △一	六一冊 △一	一〇冊 △一	二、三三二冊 △二四一
第二門教育	四八七冊 △二八	七冊 △一	一冊 △一	一冊 △一	六九冊 △四	二四一冊 △三九	八二冊 △一七	一一冊 △一	三五冊 △二	一一冊 △一	九九七冊 △二四五



新聞雜誌	合計	御大典 開國文庫 記念	第九門 美術諸藝 競技	第八門 產業交通 通信	第七門 工學海軍 軍事	第六門 理學數學 醫學	第五門 政治法律 統計家政 社會	第四門 歷史地誌 風俗	第三門 文學語學
11	△ 二九、二七 △ 三、一七	19	△ 一、八一 △ 三	△ 一、八〇 △ 一五	△ 五四五 △ 一四	△ 三、一〇三 △ 二八二	△ 二、二四三 △ 一、二六	△ 三、一三三 △ 三三三	△ 八、六一九 △ 一、〇九七
11	△ 三六	11	△ 四三	149	六二	三六	六三	三三	五九
11	△ 二六	11	11	11	16	13	13	14	12
11	△ 五三	11	15	15	11	18	15	19	19
11	△ 三六	11	△ 六二	△ 一四	△ 一四	△ 一五	△ 二〇	△ 一三	△ 一五
11	△ 一、四三	11	△ 三九	△ 六四	△ 一七	△ 六二	△ 一、一四	△ 八三〇	△ 二、六六〇
11	△ 二、二六	11	△ 二四	△ 六五	△ 二六	△ 四六	△ 二七	△ 二七	△ 六七〇
11	△ 五、七五	11	11	11	11	11	11	11	11
11	△ 三六	15	△ 二七	△ 一〇	△ 一〇	△ 四	△ 三	△ 五	△ 七
11	△ 二、七八	11	△ 四六	△ 三六	△ 一〇	△ 四	△ 二	△ 一	△ 四
11	△ 一、八五	14	△ 一、九二	△ 七五	△ 三三	△ 四、一〇	△ 四、三六	△ 四、六九	△ 二、九七

一四

總計 三、二九〇 七六二 二七六 五三三 一、四八二 二、二四六 二、五四三 一、八八八 二、五四四 四三八 七〇、六五二

(備考) 新聞雜誌ハ閲覧人頗ル多ク一年間數萬人ニ達スベキモ茲ニ統計セズ

昭和三年 一月ヨリ十二月迄	昭和三年 一月ヨリ十二月迄
部 門	住 所
和漢書	彦根町
洋書	犬上郡
合計	愛知郡
	神崎郡
	坂田郡
	東淺井郡
	蒲生郡
	男 人
	女 人
	員 計

一五

種別	大正五年度	大正六年度	大正七年度	大正八年度	大正九年度	大正十年度	大正十一年度	大正十二年度	大正十三年度	大正十四年度	大正十五年度	昭和二年度	昭和三年度	昭和二年(三月迄)	備考
第七門 工學海軍	△	九一八	二二二	△	一五	△	九二二	二二三	滋賀郡	四	四	一	四	四	四
第八門 產業交通	△	二、三七四	七五	一	二、三七四	七五	野洲郡	四	四	一	一	一	四	四	四
第九門 美術諸藝	△	一、九一六	一三四	一	一、九一六	一三四	甲賀郡	二	二	一	一	一	二	二	二
御大典記念開國文庫	一四	一四	一四	一四	一四	一四	伊香郡	一	一	一	一	一	一	一	一
合計	△	五九、一六三	一、四六五	△	二二二	一五九、一八五	一、四六七	大津市	四九	一	一	一	一	一	一
新聞雜誌	一	一	一	一	一	一	他府縣	四九	四九	一	一	一	一	一	一
總計	七〇、六二八	七〇、六二八	七〇、六二八	七〇、六二八	七〇、六二八	七〇、六二八	合計	四一、六五四	九、三二六	五〇、九八〇	六〇	一	一	二	四

創立以來圖書閱覽狀況累年比較統計

種別	大正五年度	大正六年度	大正七年度	大正八年度	大正九年度	大正十年度	大正十一年度	大正十二年度	大正十三年度	大正十四年度	大正十五年度	昭和二年度	昭和三年度	昭和二年(三月迄)	備考
閱覽人員	七、四七五	六、四四二	六、六七三	三、九七四	二、〇七三	八、八九二	五、二二二	八、三二五	四、〇八一	七、五八三	五、三二四	四、〇六八	四、四七六	四、七六八	昭和二年(三月迄) 昭和二年(三月迄) 昭和二年(三月迄)
閱覽冊數	六、九三三	四、〇七七	二、五三九	一、四〇〇	三、六七二	八、三三二	二、〇二二	一、四〇三	一、五四三	三、〇五〇	五、九八二	三、六三三	五、九六一	七、八〇〇	昭和二年(三月迄) 昭和二年(三月迄) 昭和二年(三月迄)

第六、經費

一金五千六百四拾八圓 昭和三年度圖書館費

- (一) 給料 貳千五百貳拾四圓 館長並書記給料
- (二) 雜給 五百九拾貳圓 旅費、使丁給、賞與
- (三) 恩給基金 貳拾六圓 恩給基金納金
- (四) 需要費 貳千四百六圓 備品費、消耗品費、印刷費、通信運搬費、賄費、雜費
- (五) 修繕費 百圓 建物及敷地修繕

第七、館員

昭和四年一月現在

就職年月日	職名	氏名
昭和二年二月九日	館長	松原廣吉
大正十五年二月十日	書記	成宮與惣次郎
昭和三年四月二十一日	書記	氏家興

昭和二年三月三十一日

書記心得

鈴木一子

一八

昭和三年八月一日

囑託

朝見辰一

因ニ現職員ノ外創立以來館長若クハ館長事務取扱ヲナセシ諸氏專任館員トシテ圖書館事務ニ從事セシ諸氏ヲ舉グレバ左ノ如シ

一、館長又ハ館長事務取扱

自大正五年十二月二十六日  
至大正六年七月八日

町長

柳瀬銀藏

自大正六年七月九日  
至大正七年三月二日

同

石橋彦三郎

自大正八年二月二十日  
至大正十年一月三十日

同

安居喜造

自大正十三年二月二十六日  
至大正十四年四月十四日

同

渡邊九一郎

自大正十四年七月二十八日  
至大正十五年八月三十一日

同

堀部久太郎

自大正十五年十月五日  
至昭和二年二月八日

同

平塚分四郎

一、圖書館專任司書並書記

自大正五年十二月二十六日  
至大正八年二月二十六日

書記

北村壽四郎

自大正八年十二月二十八日  
至大正九年二月二十六日

書記

濱野鐵藏

自大正九年三月二十七日  
至大正十一年二月二十三日

書記

村山長資

自大正十一年二月二十八日  
至大正十五年一月十二日

書記

岡崎祐業

自昭和二年三月三十一日  
至昭和三年三月三十一日

司書

芳谷有道

自大正十五年二月十日  
至現今

書記

成宮與惣次郎

第八、寄贈

最近五年間ニ於ケル金品ノ寄贈左ノ如シ茲ニ特記シテ永久ニ其ノ好意ヲ記念セントス

一、圖書寄贈

氏名 冊數 氏名 冊數

原 甲次郎氏 一 目加田 助三郎氏 一 中村他家次郎氏 一

西村末吉氏	六三	北村壽四郎氏	一	大島居奔三氏	二
山口玄洞氏	二	中島達也氏	一	田邊朔郎氏	一
岩崎小彌太氏	一	三上明温氏	一	川口吉次郎氏	一
西村貞三氏	一	神木猶之助氏	二	岡崎祐業氏	一
中田彦三郎氏	一	前川繁次郎氏	一八	中村文夫氏	一六
海軍省副官	一	文部省	一八	中川留三郎氏	一三
高橋貞次郎氏	一	官内省	一	山本直子氏	七
仁木比さ子氏	七	菊地靖雄氏	一	田邊幸次郎氏	一
北村壽四郎氏	一	鎌田勝太郎氏	一	海田清安氏	三
松澤忠太氏	一	西村爲之助氏	一三	歸一協會	一
安田善次郎氏	一	大島居近子氏	一五二	下村耕次郎氏	一
村下斯康氏	一	水波廣氏	一	歸一協會	一
築紫滋彦氏	一	北海道廳	一	外務省	一
鐵道省	八	福井孝治氏	一	臺灣總督府	一
大分縣修道會	一	住友信托株式會社	一	伊藤國利氏	三九

神宮皇學館	一	三越幸太郎氏	五六	兒童保護研究會	一
官内省	一	大震災善後會	一	鐵道省運諭局	一
京都市心學修正舍	一	垣松勤一氏	一	吉川純雄氏	一
東京第一銀行	一	尼子止	一	大阪繪具染料組合	一
滋賀縣社會課	二	大分縣佛教求道會	一	大津地方裁判所	一
大津地方檢事局	一	關東廳	一	滋賀評論社	一
文部大臣官房文書課	二	辻勝太郎氏	一	彦根町役場	一
大阪朝日新聞社	二	貯金局長平塚米次郎氏	一	尾崎兼太郎氏	八
柴田隆詮氏	一	下村宏氏	一	堀部久太郎氏	一七
内閣拓殖局	一	廣瀬滿正氏	一	丸山岩松氏	一
堀内謙吉氏	一	古市公威氏	一	臺灣總督府	一
臺灣總督官房	一	平居芳太郎氏	六	若林角之丞氏	一
鹽原又策氏	一	小倉二郎氏	二	小西政次郎氏	一
辻吉三郎氏	一	滋賀縣學務部	五	西川太治郎氏	一
西堀郁太郎氏	五	野田弘氏	一	滋賀縣	五

若林 庄太郎氏	二四	平田伯爵傳記事務所	一	ビ・ニ・スミス氏	一〇
五十嵐 太刀郎氏	一	上野 九一郎氏	二九	杉村 義太郎氏	一
戸本 松次郎氏	一	小林 庸平氏	一	西川 千枝氏	一
宮田 思洋氏	一	貯金局	八	下村 耕次郎氏	二
川村 文雄氏	一	文部省普通學務局	三	下郷 傳平氏	一
紙 顯氏	一	海軍省	一	福田 宏一氏	一
澤藤 しかの氏	一	西川 太治郎氏	一	加藤 正秀氏	七〇
阿原 左金吾氏	二〇七	滿鮮案内所	一	服部 富賢氏	二
松平 乘承氏	一	彦根町役場	一	農林省農務局	一
野上 固三氏	七	日本勸業銀行	一	遞信省	一
三浦 義秋氏	二九八九	内閣拓殖局	一	尾崎 良治氏	一
阪東 宣雄氏	一	神木 鷗津氏	一	日本赤十字社	二
岩波 書店	五六	鹿兒島縣	二	岐 阜縣	一
京都東本願寺	一	林 靖一氏	三	滋賀縣	七
貯金局	三	服部 繁次郎氏	一	吉田 寅吉氏	一

門野 宗夫氏	二	山田 豊氏	一	毛利 高範氏	一
矢野 貫城氏	五	普通學務局	二	服部 富雄氏	一
中村 五十一郎氏	一	外務省	二	兒玉 一造氏	一
市村 元次郎氏	一五	立憲政友會史出版局	四		
二、金品寄贈					
一金七萬四千圓		中川 良藏君	一、寫真額 一面	大阪毎日新聞彦根通信部	
一、圓形大時計 一個		大阪朝日新聞社	一、大時計 一個	堀部 銈次郎君	
一、額 一面		大橋 文佑君	一、中川留三郎氏肖像額 一面	中川 良藏君	
一、中川綠郎氏肖像額 一面		中川 良藏君	一、茶盆 一個	高田 善助君	

第九、施設事項

一、講演會其他ノ會合  
 昭和二年十二月二日滋賀縣水産試驗場長川端重五郎氏ヲ聘シ水産食料品ニ關シ婦人講演會ヲ開催ス。出席者九十五名  
 昭和三年九月一日關東大震災記念日ニ際シ滋賀縣彦根測候所長筒井百平氏ヲ聘シ地震ニ關スル知識並ニ地

震時ノ心得ニ就テ講話アリ。餘興トシテピクターレコードノ試聴ヲ行ヘリ。出席者百五十名  
昭和三年十月十八日御大禮記念講演會ヲ開催シ彦根高等商業學校教授服部富雄氏ノ御大禮ニ關スル講話アリ。餘興トシテ音樂演奏アリキ。出席者百五十二名  
其他青年處女ニ對スル講演會二回、讀書會三回、兒童會七回、句會月一回舉行一般民衆ノ修養、趣味ノ向上ヲ圖リ尙ホ國家的記念日ニハ特ニ關係圖書ヲ陳列縱覽セシメタリ。

#### 一、展 覽 會

昭和三年九月二十五日ヨリ五日間御大典記念名士遺墨展覽會ヲ開催シ本町名士ノ遺墨ヲ蒐集シ且稀觀書ヲ陳列シテ一般ニ縱覽セシメタリ。入場者二千餘名ニ達ス。本會開催ニ當リ本町有志諸士ノ贊同出品ヲ得、本町名士ノ代表的遺墨ヲ網羅シ得テ、先人ヲ顯彰シ後進ヲ發憤セシメ裨益少カラザリシヲ信ズ  
昭和三年十月二十日明治五年學制頒布以來ノ小學校教科書展覽會ヲ開催シ、珍書ヲモ解説陳列シテ一般ニ縱覽セシメタリ。入場者六百餘名

#### 一、揭示教育及宣傳

揭示板ヲ利用シテ時々修養ニ關スル語句ヲ揭示シ、各種記念日ニハ揭示又ハ宣傳ビラヲ配附シテ一般ノ注意ヲ喚起シ又ポスターヲ調製シテ町内各所ニ吊下ゲ宣傳ビラト相待ツテ讀書ヲ勸奨シ本館圖書ノ有効ニ利

用セラレンコトヲ努メ居レリ

#### 一、巡回文庫ノ開始

昭和三年十一月ヨリ御大典記念文庫ヲ開始シ町内床屋並ニ修養團體等ニ廻附シ廣ク民衆ノ閱覽ニ供スルコト、セリ該規程左ノ如シ

##### 彦根圖書館巡回文庫規程

第一條 巡回文庫ハ學校、官公衛、會社、銀行、庄屋、青年團其他ノ修養團體並ニ館長ニ於テ特ニ必要ト認

メタル向ニ廻附シ弘ク公衆ノ閱覽ニ供スルモノトス

第二條 巡回文庫ノ交附ヲ受ケントスル時ハ代表者ヨリ左記請求書ヲ本館ニ差出スベシ

##### 巡回文庫請求書

貴館規則遵守可致ニ付本校(何々)へ巡回文庫御廻附相成度此段請求候也

年 月 日

何々代表者氏名印

彦根圖書館長氏名殿

第三條 巡回文庫ハ圖書目錄、閱覽簿等ヲ添へ之ヲ送附ス

第四條 巡回文庫ヲ受取リタル時ハ直チニ左記受領證ヲ差出スベシ

##### 巡回文庫受領證

一、巡廻文庫 第何號

一、閱覽簿 何冊

一、其他 何々

右正ニ受領候也

年 月 日

何代表者住所氏名印

彦根圖書館長氏名殿

第五條 巡廻文庫ノ使用ハ無料トス

第六條 巡廻文庫ノ使用期間ハ廻附ヲ受タル日ヨリ一ヶ月間トス

但都合ニ依リ伸縮スルコトアルベシ

第七條 巡廻文庫ノ管理者ハ廻附ヲ受ケントスル巡廻文庫ノ編成ニ就テ豫メ希望圖書名又ハ種類名ヲ申出ヅルコトヲ得

第八條 巡廻文庫ハ一定ノ閱覽所ニ於テ閱覽セシムルモノトス

但必要ナル場合ハ適當ナル方法ニ依リテ彦根在住者ニシテ身元確實ナル者ニ限り帶出閱覽セシムルコトヲ得。其ノ帶出期間ハ三日以内トシ冊數ハ一冊トス

第九條 閱覽所ニ於テ閱覽セシムル者ニハ閱覽所閱覽簿ニ帶出者ニハ帶出閱覽簿ニ規定ノ事項ヲ記入セシム

ベシ

第十條 巡廻文庫ハ請求者之ガ管理者トナリ使用中亡失又ハ毀損シタル時ハ之ヲ辨償スルモノトス

第十一條 巡廻文庫ハ使用期間滿了後遲滯ナク添附書類ト共ニ本館ニ返還スベシ

第十二條 巡廻文庫ノ受渡取扱ハ本館執務時間中トス

第十三條 巡廻文庫ノ返還ヲ受ケタル時ハ本館ヨリ直チニ受領書ヲ交附ス巡廻文庫ノ圖書ニ亡失毀損等アリタル時ハ其際之ヲ處理スルモノトス

第十四條 本規程ハ昭和三年十一月ヨリ施行ス

一、新聞雜誌公報類寄贈書

書名	寄贈者名	發行回數	大阪商工會議所月報	大阪商工會議所
滋賀農報	滋賀縣農會	月一回	滋賀縣氣象月報	彦根測候所
書勢	大同書會代理部	同	眞宗	大谷派本願寺
南洋協會雜誌	南洋協會	同	高野山時報	高野山時報社
軍事警察雜誌	軍事警察雜誌社	同	華頂	華頂文社
博愛	博愛發行所	同	金光教青年	金光教青年會聯合本部
			共濟	滋賀縣昭和會

道之友	天理教道友社	月二回
光	一燈園宣光社	月一回
湖畔の聲	湖聲社	同
湖千鳥	千鳥社	同
求心	誠通社	同
通俗衛生	大阪府衛生會	同
通商彙報	大阪府立商品陳列所	月二回
湖國	湖國社	月一回
度量衡	日本度量衡協會	同
海防	海防義會	同
作與	講道館文化會	同
經濟之日本	經濟之日本社	同
鎌田共濟會雜誌	鎌田共濟會	同
第一通信	第一通信社	同
電氣旬報	電界社	月三回
太陽堂月報	太陽堂月報社	月一回
時潮	三協出版社	同
友園	友園發行所	同
十六	伏見十六會	同
人道	人道社	同
教會時報	教會時報社	同
太湖	太湖社	同
葡萄樹	葡萄樹社	同
東亞交通評論	東亞交通評論社	同
實用新案公報	特許局	每週二回
特許公報	同	同
商標公報	同	每週一回
海外經濟事情	外務省通商局	同
近江と人	近江人協會北村壽四郎氏	月一回
國際時報	外務省情報部	月二回

サンデー毎日	廣瀬繁次氏	每週一回
中央園藝	中央園藝會	月一回
昭和新報	昭和新報社	毎日
彥根日報	彥根日报社	毎日
新愛知新聞	新愛知新聞社	毎日
江州中央新聞	江州中央新聞社	毎日
大阪時事新報	大阪時事新報社	毎日
京都帝國大學新聞	京都帝國大學	時々
江州毎日新聞	江州毎日新聞社	毎日
3 井伊直中公筆	北川 常太郎殿	
4 縫殿之助永岳筆壽星之畫	塚本 與惣吉殿	
5 中川漁村筆	安居 喜八殿	
6 青根九江筆山水畫	廣野 織藏殿	
7 井伊直惟公筆馬之畫	木下 喜七殿	
8 井伊直弼公筆竹自畫贊	淺見 竹太郎殿	
9 岸竹堂筆猛虎畫	西田 庄助殿	
10 井伊直弼公筆	安居 喜八殿	
11 狩野縫殿之助永岳筆	石橋 彦三郎殿	
12 井伊直憲公筆	大久保 員臣殿	
13 狩野縫殿之助永岳筆	近 藏 平兵衛殿	
14 脇 醉石 筆	高橋 隆二殿	
15 遠城謙道 <small>せん茶</small> 自畫贊	若松 榮吉殿	
16 井伊直英公筆	小倉 仁三郎殿	
17 遠城謙道筆柳畫贊	西村 幾三郎殿	

御大典奉祝彥根名士遺墨展覽會目錄  
 (自昭和三年十月六日  
 至同 十日)

品名	出品者
1 井伊直弼筆	丹下 德次郎殿
2 森川許六筆草花鳥畫	廣野 織藏殿



18	青根竹泉筆拓榴雀之畫	淺見竹次郎殿
19	岡本黃石筆	上田常安殿
20	新野情來筆山水畫	西川幸七殿
21	長野義言筆	石田佐一郎殿
22	森川許六筆	石田佐一郎殿
23	小原君雄筆	西川幸七殿
24	岸竹堂筆	大久保員臣殿
25	大東義徹筆	淺見竹太郎殿
26	龍玉淵畫龍草蘆贊	安居喜八殿
27	龍草蘆先生之像敦光畫	龍敏雄殿
28	龍玉淵先生之像守景畫	龍敏雄殿
29	龍草蘆筆	大橋長松殿
30	縫殿之助永岳筆壽老畫	大久保員臣殿
31	中村覺筆	門野宗夫殿
32	岡本宣就筆	西村市三郎殿
33	僧俊龍筆	西川幸七殿
34	青根竹泉筆花鳥畫	鈴木省三殿
35	彌千代様筆	西村幾三郎殿
36	岸竹堂筆壽星畫	木下喜七殿
37	如意山人筆	大久保員臣殿
38	佐竹永海筆	近藤捨次郎殿
39	中村長平筆	石田佐一郎殿
40	田中芹坡筆	西川幸七殿
41	大管中養父筆梅鶯自畫贊	力石賢藏殿
42	山本泉介昌蔭筆	西村幾三郎殿
43	長野義言たき女筆	鈴木省三殿
44	中島安泰筆	上田安常殿
45	小原君雄筆	前川善平殿
46	新野清來筆菊畫	前川善平殿
47	日下部鳴鶴筆	大久保員臣殿

48	田部密筆	大久保員臣殿
49	中島安泰筆	大久保員臣殿
50	日下部鳴鶴筆	木下喜七殿
51	中川漁村筆	中川良藏殿
52	中川漁村先生之像谷鐵臣贊	中川良藏殿
53	中川漁村筆	後閑繁次殿
54	長野義言たき女贊滿香牡丹畫石	田佐一郎殿
55	岡本喜庵筆	田中德三殿
56	武藤竹陰筆梅之畫巖谷一六贊淺見	見竹太郎殿
57	岡本黃石筆	大久保員臣殿
58	石黒務筆自畫筆	若松榮吉殿
59	僧山英筆	西川幸七殿
60	青根九江筆花鳥之畫	橋詰猪三郎殿
61	谷如意筆	古澤克造殿
62	岸竹堂筆	安居喜藏殿
63	僧海量筆	塚本與惣吉殿
64	日下部鳴鶴筆	木下喜七殿
65	龍玉淵筆山水之畫	河村純達殿
66	僧海量筆	前川善平殿
67	岸竹堂筆	丹下德治郎殿
68	僧漢三筆	西川幸七殿
69	龍玉淵筆人丸像畫贊	前川善平殿
70	岡本黃石筆	中林正造殿
71	周山筆竹林彈琴畫	木下喜七殿
72	龍草蘆筆	小堀留次郎殿
73	井伊直憲公筆	淺見竹太郎殿
74	新野古拙筆	塚本與惣吉殿
75	大海原尙義筆	淺見竹太郎殿
76	谷如意筆	廣野織藏殿
77	日下部鳴鶴竹自畫贊	淺見竹太郎殿

122 121 120 119 118 117 116 115 114 113 112 111 110 109 108

青根九江筆	谷鐵臣筆	佐竹永海筆竹林七賢人之畫	青根九江筆花鳥畫	岡本黃石縫雲台作畫	日下部鳴鶴筆	僧俊龍筆梅畫贊	石黑務筆自畫贊	西村捨三筆	寂室堅光筆三面大黒畫	石居元政筆	僧海量筆富士自畫贊	井伊直英公筆馬之畫	長野義言筆和歌	五老并許六筆
奥野久太郎殿	塚本與惣吉殿	大久保員臣殿	小堀鶴吉殿	若松榮吉殿	鈴木省三殿	西村幾三郎殿	前川善平殿	彦根圖書館	西川幸七殿	西川幸七殿	木下喜七殿	同氏	西村幾三郎殿	大久保員臣殿

137 136 135 134 133 132 131 130 129 128 127 126 125 124 123

狩野縫殿之助永岳筆	短冊	長野義言筆	北條辨旭筆	長野義言たき女筆	井伊直弼公書翰之卷二	僧仙英筆自畫贊	井伊直弼公筆	井伊直弼公筆	井伊直弼公筆	井伊直弼公筆	宮崎鐵幹筆墨梅畫	青根竹泉筆	森川許六神農之畫
小堀鶴吉殿	西村幾三郎殿	上田安常殿	圓常寺殿	上田安常殿	上田安常殿	木下喜七殿	丹下德治郎殿	奥野久太郎殿	安居喜八殿	數江ひさ殿	木下喜七殿	堀江殿	河村純達殿

92 91 90 89 88 87 86 85 84 83 82 81 80 79 78

外村三行筆	日下部鳴鶴筆	岡本半助筆	短冊	岸竹堂蓮月贊	短冊	中川漁村詩	武藤竹蔭筆	龍草蘆筆	新野雪楂筆	寂室堅光筆	岡本半助筆	西郷路郷筆	寂室堅光牡丹自畫贊	僧仙英筆
西川幸七殿	西村市三郎殿	西川幸七殿	塚本與惣吉殿	小堀鶴吉殿	上田安常殿	渡邊九一郎殿	鈴木省三殿	木下喜七殿	古澤克造殿	清涼寺殿	滿島善次郎殿	杉江太平殿	塚本與惣吉殿	小倉仁三郎殿

107 106 105 104 103 102 101 100 99 98 97 96 95 94 93

龍玉淵筆	青根竹泉筆花鳥畫	新野古拙筆梅月義言贊	狩野縫殿之助出山釋迦畫	井伊直弼公筆	岸竹堂海邊遊鶴畫	脇醉石筆	井伊直弼公富士畫贊	岡本宣就筆	井伊直弼公贊英一笑瀧畫	井伊直弼公筆	新野雪楂筆山水畫	長野義言筆	岡本半助布袋自畫贊	野村公臺筆
龍敏雄殿	安居喜八殿	數江ひさ殿	石橋繁藏殿	石橋繁藏殿	安居喜造殿	塚本與惣吉殿	安居喜八殿	木下喜七殿	大久保員臣殿	西川幸七殿	粕淵殿	渡邊九一郎殿	力石賢藏殿	安居喜藏殿

179 178 177 176 175 174 173 172 171 170 169 168 167 166 165

短冊(野公蓬高野真盛 武笠宣藤岡村教邦三居一通)筆	大東義徹翁書翰寫真添	北條辨旭筆黃石縫雲其他	井伊直弼公筆	井伊直弼公筆寶珠之畫	長野たき筆	外村牛雲上田成美筆	岡本宣就筆	岡本宣就布袋自畫贊	井伊直弼公筆	井伊直憲公筆 布袋之畫	森川許六筆 如意山人題字	成伴成美筆其他	遠城謙道筆自畫贊	僧李由筆大根自畫贊
杉江太平殿	木下喜七殿	圓常寺殿	丹下德治郎殿	渡邊九一郎殿	西川幸七殿	上田安常殿	小堀留次郎殿	安居喜八殿	橋詰猪三郎殿	西村幾三郎殿	木下喜七殿	上田安常殿	上田安常殿	佐竹與惣吉殿

152 151 150 149 148 147 146 145 144 143 142 141 140 139 138

新野清來筆	五老井許六筆	岡本半助筆	井伊直弼公筆	井伊直弼公筆 俳句	石居元政筆 雪の句	森川許六筆 不二畫	武藤新左工門筆	田中芹坡筆	新野清來筆	岡本黃石縫雲扇子	永岳すゝき畫扇子	井伊直弼公筆 和歌	五老井許六松茸自畫贊	井伊直弼公筆
原甲次郎殿	安居喜造殿	數江ひさ殿	西村幾三郎殿	的場順一郎殿	杉江太平殿	田中德三殿	大橋長松殿	松浦成四郎殿	宮川常三郎殿	島津吉兵衛殿	石田佐一郎殿	廣野織藏殿	數江ひさ殿	鈴木省三殿

188 187 186 185 184 183 182 181 180

三條實萬公筆	恬然筆自畫贊	青木千枝筆	字津木左近短冊一	松浦果集書卸一	北川得四捲り	森川許六筆	龍玉淵筆	井伊直弼筆	外村省吾筆	澤村琴所書箋
井上誠一殿	井上志朗殿	門野宗夫殿	同	同	高橋隆二殿	鈴木省三殿	西村市三郎殿	奧野久太郎殿	北川常太郎殿	木下喜七殿

三三  
三三  
三三  
三三  
三三  
三三  
三三  
三三  
三三  
三三  
三三

164 163 162 161 160 159 158 157 156 155 154 153

森川許六筆海老畫李由贊	井伊直亮公筆法華經八卷	中島素風筆	深草元政筆書翰之卷	短冊(薄書千尋務 有年素風筆)	短冊(井伊直弼公筆 長野義言筆)	短冊(竹香舍素風筆 青木千枝筆)	岡村教邦豐因筆	短冊(竹岡千尋田中芹坡 青木千枝豐因薄書)	短冊(井伊直弼公同俳句 龍公美大堀正輔雪香岸竹堂畫)	森川許六筆	井伊直中公筆玉之畫	井伊直與公筆書翰	
島津吉兵衛殿	清涼寺殿	石田佐一郎殿	妙源寺殿	鈴木省三殿	石田佐一郎殿	上田安常殿	前川善平殿	島津吉兵衛殿	力石賢藏殿	小堀鶴吉殿	佐竹與惣吉殿	西村幾三郎殿	西村幾三郎殿

利休點取釜

氏家

興殿

本展覽會開催ニ就キ有志各位ハ秘藏ノ遺墨ヲ出品セ  
ラレ木下喜七氏ハ蒐集ニ關シ多大ノ援助ヲ與ヘラレ  
タリ茲ニ特記シテ其好意ヲ謝ス

昭和四年二月廿二日印刷  
昭和四年二月廿五日發行

【非賣品】

編輯所兼

滋賀縣彦根町大字四番  
彦根圖書館

印刷者

滋賀縣彦根五番町六十二番地  
村下斯康

印刷所

滋賀縣彦根五番町六十二番地  
村下印刷所

終